

地域おこし協力隊導入のための心得

～地域おこし協力隊を活用して地域がさらに元気になるために～

その①制度を知る

概要（出典：地域おこし協力隊HP: <http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi>）

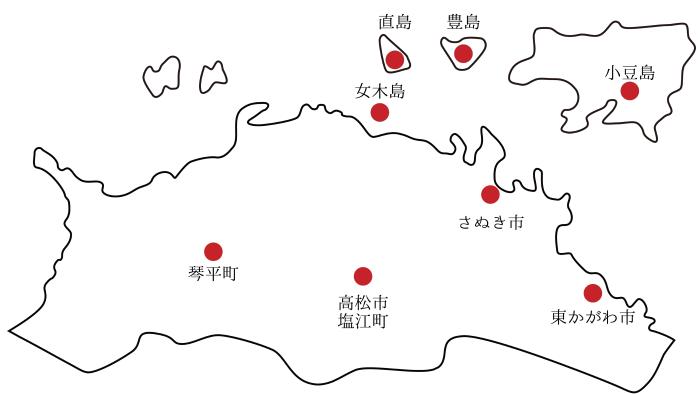
人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図る事で、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていく事を目的とした制度

全国の地域おこし協力隊：約2,600名

（平成27年度現在）

香川県の地域おこし協力隊：県3市4町18名

（平成28年4月1日現在）



その②課題を知る

(香川県内の地域おこし協力隊向けアンケート結果より)

i 「誰に相談したらいいの？」（相談役の不在）

相談する相手がおらず、隊員が孤立と不安を感じながら活動するケース▶メンター（相談役）の設置

ii 「コミュニケーションが上手く取れない」（意思疎通の壁）

職員・住民とのコミュニケーションで悩むケース▶綿密なコミュニケーションの仕組みが必要

iii 「任期後が不安」（将来に対する不安）

「楽しい」だけではいつまでも続かないケース▶3年間雇う責任と将来と一緒に考える協力体制が必要

その③本質を知る

(例)

課題	ツール（手段）
税収の減少	ふるさと納税
人口減少	移住コンシェルジュ
買い物難民	移動販売
???	地域おこし協力隊

地域おこし協力隊は、地域課題解決するためのツール（手段）です。

つまり、導入するのが目的ではなく、**地域課題の解決**が目的です！

「何のために、何をしてもらうのか？」

地域・行政・隊員、**全員**が共有する必要があります！

ココを事前に決めることが必須！

若者目線

柔軟な発想、ITの活用など

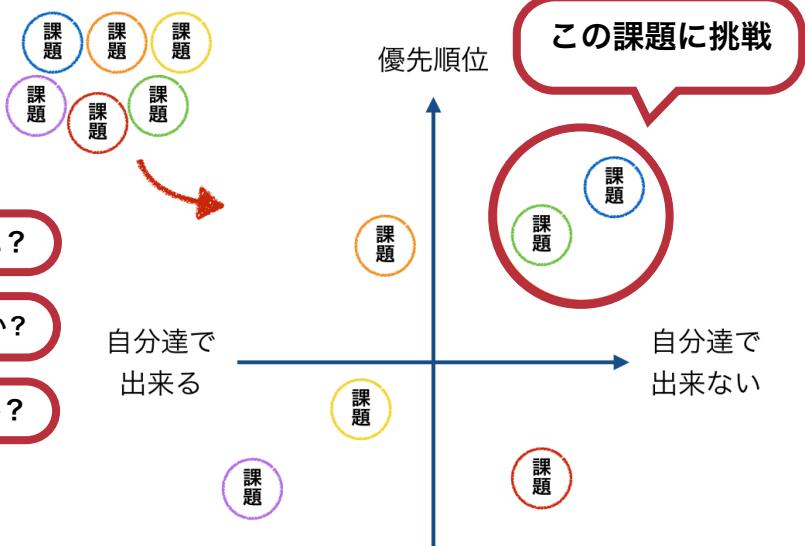
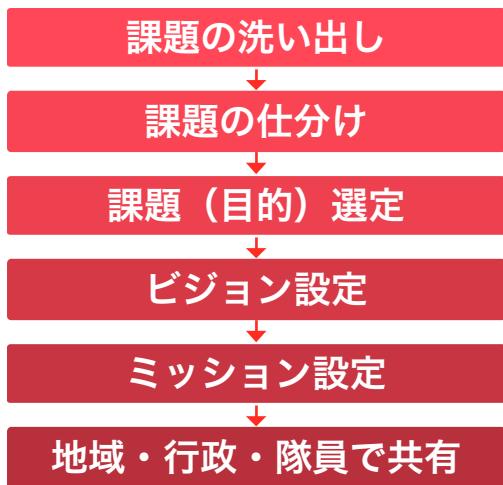
よそ者目線

前例にとらわれず、新鮮な目線で地域を捉える

鳥の目線

協力隊ネットワークを活かして広い視野で地域を捉える

その⑤目的を明確化し、共有する



その⑥受入態勢を整える

くらし編

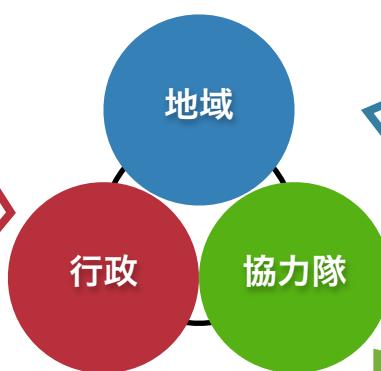
住居 生活環境 通勤環境 住民の受入態勢 住民との交流の機会

しごと編

雇用形態 勤務場所 副業 給与 備品（PC、公用車等）活動範囲 職員理解
ほうれんそう（報告・連絡・相談）体制 意思決定体制 任期後イメージ 定住サポート
研修・スキルアップの機会

その⑦心構え

- ・ 3者の想いを1つにする
協力隊と地域の“調整役”
- ・ 課題解決に向けた
“きめ細かいサポート”



- ・ 協力隊に“やってもらう”のではなく、“一緒にやる”
- ・ 協力隊は便利屋、スーパー、マジックアーティストではない。“地域の仲間”

- ・ 独りよがり、自己満足では地域は起こせない
- ・ 地域の意思を尊重する
- ・ 「やりたい事」と「地域の想い」の融合をカタチに

さぬきの輪的 地域おこし協力隊導入のための心得

平成28年6月 第1版 製作

香川県政策部地域活力推進課

〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号

TEL:087-832-3105 FAX:087-831-1165

MAIL:chiiki@pref.kagawa.lg.jp

協力隊情報
さぬきの輪WEB

